

IV-53 原発電地域における里地里山の景観デザイン理念の形成について

岩手大学 学生員 ○鈴木 俊成 正 員 安藤 昭
正 員 赤谷 隆一 正 員 南 正昭

1. はじめに

里山とは、都市と自然との間にあって人々が利用してきた森林、また、同時に薪や炭などの燃料、肥料にする落ち葉の採取など、人の手が入る事によって多種多様な生物が暮らせる環境が保たれてきた場所である。しかし、現在では里山と人との結びつきが希薄になり共生環境が失われ、里山の荒廃が進んでいる。

このような状況の中、里山の役割を再認識し、再生しようという動きが起きている。本研究は、里地里山地域の再生のために生物的環境・インフラ機能空間・文化現象・心理現象という4つの視角から景観デザイン理念の形成に向けての提案を行うものである。

2. 対象地域の概要

対象地域である福島県双葉郡富岡町は浜通り地方のほぼ中央に位置する。人口16,049人（平成16年12月末日現在）、総面積68.47km²。東部に太平洋、西部に阿武隈山系が連なり、楢葉町との町境である沿岸南部に福島第二原発を有する原発電地域である。

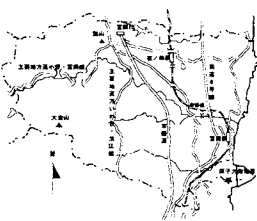


図-1 富岡町の概略図

3. 調査の概要

生物的環境、インフラ機能空間については、富岡町の資料・文献および現地踏査から、文化現象、心理現象については、富岡町住民を対象として里地里山のイメージに関するアンケート調査を実施した。調査対象を子供（10代）・親（20代～50代）・祖父母（60代以上）の3世代に分けて、各世代ごとの里地里山のイメージの結果を、比較・考察する。4つの視角から分析することにより里地里山の景観デザイン理念の形成を行う。調査の概要を表-1に示す。

なお、本研究において里地里山は「定住地としてのムラ（集落）、生産地としてのノラ（耕作地）、採取地としてのヤマ（林野）の3領域が一体となった自然と人間との共生空間」と定義している。

表-1 調査の概要

調査方法	評価主体	有効回答数			調査期間
		男性	女性	合計	
集合調査法	10代	72	84	156	平成16年12月10日
直接面接法	20～50代	54	80	134	平成16年11月19日～28日
直接面接法	60代以上	54	32	86	平成16年11月19日～28日

4. 調査結果の分析および課題の探索

4-1 生物的環境について

富岡町には、富岡川・紅葉川などの河川をはじめ、夜の森つつみ、館山溜池などの溜池が多数あり、西側には緑豊かな阿武隈山系が連なる。表-2に示した貴重な動植物も生息・生育しているが、昔に比べ数が少なくなっている。また里地里山は外側から見るとそれ程荒廃しているようには見えないが、一歩足を踏み入ると枝打ち、下草刈りなどの管理が行われていないために、日光はあたらず、竹やぶが生い茂る状態になってしまっている。

貴重種を含め多種多様な動植物の保全、昔のような健全な里山の維持管理が課題である。

表-2 貴重な動植物

種類	名称
指標昆虫類	ゲンジボタル
貴重な植物	ヒメハッカ
貴重な鳥類	カワセミ、ヤマセシ

4-2 インフラ機能空間について

原発電地域であるため水田、山の中などの鉄塔、送電線が非常に目立ち、里地里山景観が大きく損なわれている。そして、上部をフェンス、潤辺をコンクリートで囲まれている流れの急な用水路も目立つ。

鉄塔、送電線を自然に調和させること、また、里地里山景観の復興のために極力コンクリートを使用しない用水路の設置も行いたい。

4-3 文化現象としての景観について

(1) 子供の頃に行った里地里山での遊び

「子供の頃（幼稚園・小学校の頃）に行った里地里山での遊び」の上位再生要素を表-3に示す。現在では少なくなっていると予想していた川遊びも、各世代間の有意差は認められず、上位に位置する再生要素は、それほど大きな違いは見られなかった。しかし、一人当たりの平均再生数、総再生量、総再生要素数は50・60代の人が多く、里地里山が身近な遊び場だったことがわかる。

表-3 里地里山での遊び

10代			20～50代			60代以上		
順位	再生要素	再生率	順位	再生要素	再生率	順位	再生要素	再生率
1	虫捕り	31.4%	1	木の葉採集	21.6%	1	木の葉採集	45.3%
2	おにごっこ	25.0%	2	虫捕り	20.9%	2	魚釣り・魚捕り	29.1%
3	かくれんぼ	23.7%	3	魚釣り・魚捕り	19.4%	3	川遊び	18.8%
4	川遊び	19.2%	4	川遊び	17.9%	4	風船遊び	17.4%
5	魚釣り・魚捕り	14.7%	5	かくれんぼ	15.7%	5	かくれんぼ	15.1%
6	海水浴・海遊び	9.0%	6	おにごっこ	11.2%	6	きのこ狩り	14.0%
7	木遊び	7.7%	7	ソリすべり	9.7%	7	山登り	14.0%
8	木の葉採集	7.1%	8	餅作り	7.5%	8	ソリすべり	12.8%
9	山遊び・山遊び	7.1%	9	イナゴ捕り	6.7%	9	虫捕り	12.8%
10	落ち葉プール	5.8%	10	山遊び・山遊び	6.0%	10	ベッタ(メンコ)	11.6%
11	芝遊び	5.1%	11	風船遊び	6.0%	11	木遊び	10.5%
12	雪遊び	5.1%	12	かまくら	5.2%	12	おにごっこ	9.3%
13	雪合戦	4.5%	13	木遊び	5.2%	13	山遊び・山遊び	9.3%
14	風船遊び	3.8%	14	ままごと	5.2%	14	お手玉	8.1%
15	サイクリング	3.2%	15	ベッタ(メンコ)	5.2%	15	縄遊び	8.1%
16	探検	3.2%	16	ザリガニ捕り	4.5%	16	水遊び	8.1%
			17	秘密基地	4.5%	17	竹馬	8.1%
			18	野球	3.7%	18	戦中ごっこ	8.1%
			19	きのこ狩り	3.7%	19	小鳥捕り	8.1%
			20	石遊び	3.7%	20	かげっこ	8.1%
			21	お手玉	3.7%	21	ピー玉	7.0%
			22	雪合戦	3.0%	22	コマ	5.8%
			23	ゴム遊び	3.0%	23	スキー	5.8%
			24	サイクリング	3.0%	24	海水浴	5.8%
			25	縄遊び	3.0%	25	どじょう捕り	5.8%
			26	スキー	3.0%	26	イナゴ捕り	5.8%
			27	スケート	3.0%	27	チャンバラ	4.7%
			28	チャンバラ	3.0%	28	遠足	4.7%
			29	ベーゴマ	3.0%	29	野球	4.7%
			30			30	雪合戦	4.7%
			31	ベーゴマ	3.5%	31	ままごと	3.5%
			32			32	陣取り	3.5%
			33			33	おはじき	3.5%
			34			34	うなぎ捕り	3.5%

子供) 子供の頃里地里山で行った手伝

山で行った手伝

子供の頃里地里山で行った手伝

の上位再生要素を表-4に示す。

世代通じて稲刈り、田植、が再生

(2) 子供の頃里地里山で行った手伝い

「子供の頃里地里山で行った手伝い」の上位再生要素を表-4に示す。

各世代通じて稲刈り、田植えが再生率の上位に位置している。代を重ねるごとに再生要素数、総再生量が増えている。加えて、20～50代の中の、60代以上には10代では見られない薪拾い、落ち葉拾いが上位に位置している。よって、特に60代以上における里地里山は生活に結びついたものであった事がわかる。一方、10代の再生率2位のゴミ拾い、同8位の植樹・植林は里地里山が生活の一部から、守るべきものという位置づけに変わってきた事がうかがえる。

(3) 里地里山で現在行っていること

「里地里山で現在行っていること」の上位再生要素を表-5に示す。各世代で散歩・散策が上位に位置している。このことから、住民は里地里山に山菜などの採取地としての役割だけではなく、散策・散歩、山登りなどリラクゼーション効果も望んでいるといえる。

ただし、全世代で現在は特に何もしていないと答える人（10代：55%、20～50代：43%、60代以上：30%）が多く、

里地里山離れが進んでいると言わざるを得ない。

表-4 里地里山での手伝い

10代		20～50代		60代以上	
再生要素	再生率	再生要素	再生率	再生要素	再生率
1 稲刈り	11.5%	1 稲刈り	21.6%	1 薪拾い	32.6%
2 山菜採り	9.6%	2 田植え	17.2%	2 田畑仕事	30.2%
3 ゴミ拾い	9.0%	3 薪拾い	11.2%	3 稲刈り	27.9%
4 田植え	7.7%	4 草刈り・草取り	9.0%	4 草刈り・草取り	22.1%
5 草刈り・草取り	6.4%	5 田畑仕事	8.2%	5 田植え	20.9%
6 畑仕事	4.5%	6 山菜採り	6.0%	6 落ち葉拾い	14.0%
7 落ち葉掃き	3.8%	7 落ち葉拾い	5.2%	7 家畜の世話	11.6%
8 収穫	3.2%	8 木の炭採集	3.0%	8 木の炭採集	7.0%
9 稲刈り・植林	3.2%			9 風呂焚き	5.8%

表-5 里地里山で現在行っている事

10代		20～50代		60代以上	
再生要素	再生率	再生要素	再生率	再生要素	再生率
1 散歩・散策	7.1%	1 山菜採り	15.7%	1 山菜採り	24.4%
2 魚釣り	7.1%	2 散歩・散策	14.2%	2 散歩・散策	19.9%
3 稲刈り	3.8%	3 山登り	9.0%	3 きのこ採り	18.6%
4 山登り	3.8%	4 花見	7.5%	4 魚釣り	14.0%
5 木の炭採集	3.2%	5 きのこ採り	6.7%	5 田畑仕事	10.5%
6 きのこ採り	3.2%	6 魚釣り	5.2%	6 山登り	9.3%
7 ゴミ拾い	3.2%	7 芋煮会	5.2%	7 グランドゴルフ	5.8%
8 サイクリング	3.2%	8 木の炭採集	4.5%	8 山の手入れ	5.8%
9 山菜採り	3.2%	9 海水浴	3.0%	9 芋煮会	3.5%
		10 ウォークラリー	3.0%	10 紅葉	3.5%

(4) 3つの調査から明らかとなった課題

生活の一部であり身近なものとして利用されてきた里地里山が、現在ではリクリエーション、リフレッシュ、交流の場として生活に潤いを与える役割が望まれていることがわかった。人々このような要望を満たす里地里山の形成が課題である。

4-4 心理現象としての景観について

(1) 圏域図示法による里地里山のイメージ領域について

圏域図示法により里地里山のイメージ領域の調査を行った。この結果を図-2に示す。各世代ともに、イメージ領域が、西側に片寄っている。これは、富岡町の東側が、国道6号線・常磐線を含む市街地を形成している地域であるのに対して、西側は水田が多く見られ、山菜採り等に行く大倉山・麓山の山裾が広がる地域であるためといえる。

25%以上の人が再生した領域は、10代が最も広く、歳を重ねるにつれて狭くなっている。そして、12.5%以上の人が再生した領域では、20～50代が最も広く、10代、60代以上の順に狭くなる。

各世代のイメージ領域を先に述べたムラ、ノラ、ヤマの3領域をもとに考えると、10代のイメージ領域は、ヤマの要素が大きく、ムラ、ノラの要素が小さい。この領域は里地里山というより奥山に近く、10代が、しっかりと里地里山の認識をもっていないことがわかる。20～50代は、10代よりも12.5%以上の人が再生した領域の面積が最も大きい。こちらもヤマの要素が大きい。しかし、この3領域の中心部については、境界部は曖昧であるが、比較的正しい認識がなされているといえる。一方、60代以上の領域は、上記2つの項目ともに最も狭い面積であったが、3主体の中で最も確実にムラ、ノラ、ヤマの3領域が一体となった領域を示している。里地里山についての正しい認識を持っているといえる。

(2) 言語記述によるイメージについて

言語記述調査による里地里山のイメージ調査を行った。調査内容は「里地里山をイメージしたとき、心に鮮やかに思い浮かぶもの（自然的・農村的なもの・文化に関するもの・祭り・イベントなど何でも結構です）を春・夏・秋・冬にわけて、思いつた順にできるだけ多くあげてください」である。里地里山イメージの調査結果を表-6に示す。なお、今回の調査結果は3主体のとも同様な結果が出たため、全世代で集計を行った。

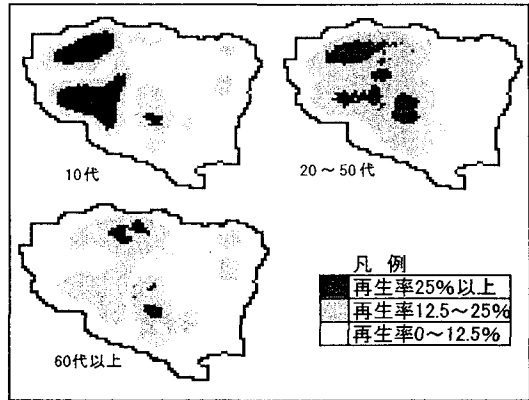


図-2 各世代のイメージ領域

表-6 里地里山の言語記述によるイメージ

総再生量 885		総再生量 987		総再生量 829	
春	再生率再生率	夏	再生率再生率	秋	再生率再生率
さくら	209 55.6%	花火(花火大会)	104 27.7%	紅葉	117 31.1%
さくら祭り	123 32.7%	麓山の火祭り	76 20.2%	えびす讚市	101 26.9%
つつじ	65 17.3%	生(虫捕り)	60 16.0%	稲刈り	67 17.8%
田植え	53 14.1%	海	53 14.1%	きのこ(きのこ採り)	59 15.7%
山菜(山菜採り)	52 13.8%	夏祭り	50 13.3%		

春は、富岡町の木である桜、町の花のつつじが上位に位置した。夏は、花火大会、麓山の火祭りをはじめとした祭りが上位要素を占め、再生量が最も多く、夏の賑わいがうかがえる。秋は、自然の要素が多く再生され実りの秋を印象づけている。冬は総再生量、総再生要素数ともに最も少なく、里地里山の冬の静けさを現すこととなった。

(3) 2つの調査から明らかとなった課題

若年層へ里地里山の適切な知識を継承していく事、四季を通じた里地里山の魅力を生かしていく事が課題である。

5. 課題の整理と理念の形成

4つの視点ごとに分析を行った里地里山の課題を統合し里地里山デザインの課題を導き出すと以下のようになった。

- ① 動植物の保全、美しい里地里山風景（原風景）の保全のための適切な里地里山の維持・管理
- ② 送電線、鉄塔と里地里山風景の調和
- ③ コンクリート、フェンス使用を抑制した豊かな水辺空間のミティゲーション
- ④ 里地里山の体験的知識をもっている熟年層がその知識を若年層に継承していく里地里山

以上4つの課題から里地里山景観の景観デザイン理念を形成した。

- i. リクリエーション、リフレッシュの場として生活に潤いを与える里地里山
- ii. 地域産業と自然環境と調和する里地里山
- iii. 美しい原風景を維持する里地里山
- iv. 身近な地域コミュニティとしての里地里山

今後は、このデザイン理念の実現のために、景観法による施策の適応を検討していく。

【参考文献】

- 1) 安藤昭：都市景観の構成，土木工学ハンドブック p841，土木学会編 1989
- 2) 水出佳奈・安藤昭・南正昭・赤谷隆一：感覚統合理論による都市景観設計の体系化に関する研究（その2），第3回観光まちづくり学会研究発表会論文集，p3-1～3-5，2004